

★★平成十七年『路』年間賞★★

〈選考委員〉 須田尚美・山崎蒼平・金子美知子・二宮茂男・
高橋里江子・小泉正巳・藤原和美・瀧 正治

最高賞（賞状・入賞句彫刻楯）

つのひろと同じ温度にする手紙

古俣 麻子

（特選） 蒼平 正巳

最高賞（賞状・入賞句彫刻楯）

古傷と古靴ワルツでもどうぞ

小泉 正巳

（秀逸） 尚美 蒼平 和美



古俣 麻子

最高賞

平成十七年『路』年間賞をありがとうございます。
独り暮らしを始めた長男へ、健康や家事など心配の種は尽きませんが、手紙には用件以外はうろさくならないような文を添えるだけと決めた想いを詠んだこの句が選ばれたことで、母としても励まされた気がいたします。思いがけない受賞に戸惑っておりませんが、みなさまからの大きな応援と受け止めて、これからも根底に「こころ」のある句を創っていきたいと思います。



小泉 正巳

最高賞

思ってもみなかった受賞に感謝の気持ちで一杯です。関係者の皆様有難うございました。
当たり前の事かも知れませんが、家庭や社会の環境変化への対応力が減退し、頑張ろうとすると体調を崩すディレンマによく落ち込みます。そんな時自分にむかって「上出来だ、もういいよ」となだめた折に浮かんだ句だと記憶しています。
またこの賞は、川柳を続けたいと思っております。

次点 (同点五句)

いい予感レモンを熱く絞りきる (特選) 蒼平 (秀逸) 尚美	荻原 鹿声
不審火が絆の中で燃えている (特選) 里江子 (秀逸) 茂男	田中 秀貴
どんぶりの中で放浪記を閉じる (特選) 正巳 (秀逸) 茂男	伊藤 我流
将来が見えてたまるか蝸牛 (特選) 正治 (秀逸) 茂男	飯田サイコ
生きていて見ようとしな命の火 (秀逸) 蒼平 正治 (佳作) 尚美	鈴木 泰舟
楢山へ行く満月の峠道 (特選) 美知子 (佳作) 和美	高橋里江子
引き出しのひとつに熱い風がふく (秀逸) 美知子 正巳	荻原 鹿声
雪のんの 人のいのちの彩で降る (特選) 尚美	松田 一洲
川越えた蝶にバンザイしてやろう (特選) 尚美	神戸三八朗
六〇年ドラマの釘を確かめる (特選) 美知子	藤原 和美
スギ花粉入りの健康茶が旨い (特選) 茂男	佐久間文城
反則へねずみ火花が追ってくる (特選) 茂男	小泉 正巳
そして明日指紋もきつと盗まれる (特選) 里江子	内平登代子
恩讐を越え水引を掛けてやる (特選) 和美	土屋 久昭
酉年の夜明けフクロウだけが鳴く (特選) 和美	岡田 話史
地に落ちるまえに枯れ葉の宙返り (特選) 正治	木村 紀夫
ぶら下がるニートに絹のしつけ糸 (秀逸) 蒼平 (佳作) 茂男	芹沢美知子

竹の花咲いて終着駅飾る

瀧 正治

(秀逸) 和美 (佳作) 正巳

是非を問う何はともあれ月が出る

高橋里江子

(秀逸) 尚美

日めくりをまとめて破り快気とす

古俣 麻子

(秀逸) 美知子

引き金を引けば凶器になる桜

平澤やす子

(秀逸) 美知子

平和への鐘に聴こえるのど自慢

竹中 正幸

(秀逸) 里江子

少しずつ自縛が解ける握り飯

岩淵 黙人

(秀逸) 里江子

三輪車走れ明日が呼んでいる

土屋 久昭

(秀逸) 里江子

息を止めてる究極のかくれんぼ

藤原 和美

(秀逸) 正巳

神はわが胸に三代生きる飯

野村 春香

大切なものを見ようと目を据える

鈴木 泰舟

(秀逸) 和美

両の手に余る愚かを抱いて人

田中寿々夢

(秀逸) 正治

全体を見ずに振られているタクト

鈴木 泰舟

(秀逸) 正治

鈍行で遠い時間を食べにゆく

樋口 仁

(佳作) 尚美 美知子

沸点に達するまでの水すなお

平澤やす子

(佳作) 蒼平 和美

形にはならぬ偶像彫り続け

久保木 博

(佳作) 尚美

花になりたい時間があつて 眠る

藤原 和美

(佳作) 蒼平

傘におはいりと染められてしまう

樋口 仁

(佳作) 蒼平

鳩尾に澱む噛み切れぬ落ち葉

渡部トミ子

(佳作) 美知子

翔ぶ鳥よ止まり木もある雲もある	佐々木彩乃
(佳作) 美知子	
天国か地獄か今日をここで生き	金澤 紀六
(佳作) 茂男	
介護には明るすぎますシャンデリア	吉澤 和子
(佳作) 茂男	
足音が揃うと銃が欲しくなる	岩本 和夫
(佳作) 里江子	
なんとまあ迷路になった人の道	木村 紀夫
(佳作) 里江子	
温暖化気にかげながら暖まり	松本 悠児
(佳作) 里江子	
プレリユードやがて自分に潰される	古俣 麻子
(佳作) 正巳	
淡彩画苦労話はもうしない	荒巻 重義
(佳作) 正巳	
手をつなぐ相手を探す玩具箱	二宮 茂男
(佳作) 和美	
アドリブも許してくれる月明かり	高橋里江子
(佳作) 正治	
近道を覚え地球を狭くする	岩本 和夫
(佳作) 正治	
終章は急がぬ旅の花筏	安野 呑酔
(佳作) 正治	

※平成十七年二月号〜平成十八年一月号P2掲載の推薦句(二五九句)から、八名の選考委員により各自が特選二句・秀逸三句・佳作三句を選び、特選三点・秀逸二点・佳作一点で集計しました。